

東濃社会教育だより

-まちづくり編-



恵那県事務所
振興防災課 振興係
社会教育担当:岩島
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

～今回のピックアップ事業～

域学連携（中津川市定住推進部 市民協働課）

6月16日（金）、OKBふれあい会館を会場に『平成29年度 岐阜県生涯学習総合推進会議』が開催されました。参加者は、各市町村の行政担当者、民間団体、大学、NPO、生涯学習施設、コーディネーター、コミュニティ診断士、地域活動団体と多岐にわたり、100名を超える人数でした。会は、岐阜県環境生活部から『岐阜県の生涯学習施策』についての説明、事例報告、意見交換会（「若者の地域参画」についてのグループ交流）という、大きく3つの流れで実施されました。その中の事例報告については、①「岐阜大学の取組について」、②「学校と連携した地域づくり活動」、③「ボランティア活動等を通じた地域とのつながり」という内容で、学びの多い研修会でした。

②「学校と連携した地域づくり活動」の実践発表されたのが、中津川市定住推進部 市民協働課の中尾 まゆみ課長補佐でした。私は昨年度から社会教育・生涯学習に携わらせていただいておりますが、これまでこの事業と交わることがありませんでしたので、とても新鮮な内容としてお聞きしました。

この紙面上では、中尾さんと阿木事務所の林 行典所長への取材を基に、中津川市の域学連携について紹介します。

域学連携とは…

☆大学生と大学教授が地域の現場に入り、地域の住民やNPO等とともに、地域の課題解決や地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化や人材育成に資する活動。

- ・ 地方自治体の4割が現在取組。
- ・ 活動に要した経費のうち地方公共団体負担分に対して特別交付税措置（H22から）→127団体に措置

（総務省地域力創造グループ地域自立応援課HP

「域学連携による地域活力の創出」より）



（学生提案発表の様子）



（現地学習の様子）

中津川市の『域学連携』の状況

学校名	活動地域
中京学院大学	全域
至学館大学	蛭川
岐阜大学	阿木・神坂 他
名古屋外国語大学	山口・加子母
文京学院大学	馬籠・中津
学習院大学	中津・恵那
滋賀県立大学	加子母
立命館大学	加子母
京都造形芸術大学	加子母
金沢工業大学	加子母
京都工芸繊維大学	加子母
京都大学	加子母
東洋大学	加子母
名城大学	加子母
日本福祉大学	加子母
名古屋工業大学	加子母
立教大学	付知

※ 加子母は**木匠塾事業**が中心。
この事業が中津川市の域学連携のお手本となっている。

『域学連携』による事業

1部のみ抜粋掲載

【中京学院大学】

◇若者と市長との懇談会 ◇大学生の市内企業訪問事業 ◇地域研究成果発表会 ◇やさか観光協会との連携事業(坂下) ◇飛騨牛ほう葉寿司の販売(山口) ◇産学連携事業でビジネスを学ぶ ◇中津川活性化CMプロジェクト

【至学館大学】

◇スポーツ選手・指導者の講習会(蛭川) ◇地元の食材を生かした懐石メニュー開発(蛭川)

【岐阜大学】

◇地元のイベントをリニューアル ◇高校生のための街なかオープンカレッジ(馬籠)

◇地域協働型インフラ管理事業(神坂) ◇岐阜の石積み学校 2016(神坂) ◇中津川企業見学会 ◇【COCプラス参加大学共通プログラム】サマースクール ◇リニア関連ぎふフューチャーセンターの開催

【その他 加子母木匠塾】

全国から集まった大学生が、木材や産直住宅関連の事業所等の協力により、木造建築実習を行いながら、地域住民との交流を通じて地域の活性化に取り組む。活動23年目

阿木地区『安岐そば・シクラメン祭り』のリニューアル

◇27年度、「阿木の特産そば・シクラメン祭りをリニューアルする」をテーマに岐阜大学の学生と地域住民でフューチャーセンター(住民と学生のワークショップ)を実施。28年度もリニューアルに至るまで、以下の事業を展開された。

- ①地域と学生の顔合わせ及び意見交換会(5月)、②学生の地域見学(6月)、③学生からの企画提案発表会(8月)、④提案実施に向けた地域との協議(9~10月)、⑤「安岐そば・シクラメン祭り」において花冠ワークショップを実施(11月27日)、⑥学生の活動報告会(2月)



(シクラメン祭り WSの様子)

阿木事務所 林 行典所長の話より

◎ 岐阜大学の学生さんのこれまでの実行委員会にとらわれない発想がよかった。特に昨年度は実施日が雨で、晴天日の対応しかしていなかったのも、とても助かった。実行委員会のメンバーも今後、更に改良していかないと…という意識改革にもつながった。

この事業では、すぐに成果を求めず、少しでも変わる要素があれば…と考えていたので、阿木にとって、とても意義ある事業であった。

中尾 まゆみさんの話より

◎ 定住推進部として、「住み続けたい・住んでみたいまちの実現」をめざし、域学連携事業などの地域の特色を踏まえた地域づくり(人づくり)に取り組むことで、各地域が望む方向へ地域の力を結実していくことを願っている。

域学連携は、即効性は弱いが、地域と学生との調整を図り、学生を育てる気持ちを持って取り組むことが大切である。取り組みの中で、学生たちの新たな発想、斬新さから地域に元気を与えられるのは事実である。地域での受入先の不足、情報共有の大変さなどの課題もあるが、地域の活性化・人材育成のため、地元の高校と地域との連携強化も視野に入れ、更に『域学連携』を活性化させていきたい。

【後記】 ◇『域学連携』によって、まちづくり・人材育成を目指し、各地域とつながりながら、その地域に見合った様々な事業を展開されていること、そのために担当課が課を超えた連携を図ってみえること等、市の将来を見据えた事業として位置づいていることを実感しました。何より、「即効性を期待しないこと」が地域の担当者にも浸透していることに感心しました。